

調査の概要

1 調査の目的

看護職員確保のために、職場環境づくり等に取り組んでいる施設の実態を調査し、看護職員の離職防止・定着促進のための対策の基礎資料とする。

2 調査主体

広島県 【調査実施：公益社団法人広島県看護協会(委託)】

3 調査の時期

令和4年12月13日～令和5年1月20日

4 調査対象及び調査方法

県内の全病院である232病院(令和4年10月31日現在)を母集団として、病院の看護管理者(看護部長等)を対象に自記式調査票(Ⅲ参考資料 資料1, 資料2)を郵送し、返信用封筒により回収した。

5 回収数及び有効回答

回収数及び有効回答

調査客体 (a)	回収数 (b)	回収率 (b) / (a)	有効回答数 (c)	有効回答率 (c) / (b)
232	196	84%	196	100%

6 本文の表し方

- 看護職員は、保健師、助産師、看護師及び准看護師をいう。
- 正規職員とは、原則としてフルタイム勤務であり、雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいう。なお、常勤、非常勤は勤務時間により区分するもので、常勤職員はフルタイムで働く職員のことをいう。
- 新卒とは、看護師等免許取得後1年以内をいう。
- 回答率(項目の回答の百分比)は、小数点第2位を四捨五入した。
- 本文、統計表等で用いた記号等の意味は、主に以下のとおりである。
 - 「n」はその質問に対する回答数であり比率算出の基数である。
 - 統計図表の「-」は計数がないことを示す。「0」は、計数はあるが四捨五入をして0であることを示す。
- 離職率の算出は次の計算による。
 - $\text{正規看護職員離職率} = \text{当該年度退職者数} / \text{当該年度平均正規職員数} \times 100$
 - ▶ $\text{平均正規職員数} = (\text{年度当初の在籍職員数} + \text{年度末の在籍職員数}) / 2$
 - $\text{正規以外看護職員離職率} = \text{当該年度退職者数} / \text{当該年度平均正規以外職員数} \times 100$
 - ▶ $\text{平均正規以外職員数} = (\text{年度当初の在籍職員数} + \text{年度末の在籍職員数}) / 2$
 - $\text{新卒離職率} = \text{当該年度の新卒退職者数} / \text{当該年度の新卒採用者数} \times 100$

II 調査結果

1 病院の概要

令和4年4月1日現在の病院の概要は次のとおりであった。

1) 設置主体別病院数

設置主体別で最も多いのは、「医療法人」133病院(67.9%)、次いで「県市町」16病院(8.2%)であった。(表1)

表1 設置主体別病院数

(単位：病院(%))

設置主体	病院数	備考
計	196 (100.0)	
国公立大学法人	1 (0.5)	
独立行政法人	11 (5.6)	
県市町	16 (8.2)	都道府県=5, 市町村=11,
その他公的医療機関	8 (4.1)	日赤=3, 厚生連=3, 済生会=2
医療法人	133 (67.9)	
個人	6 (3.1)	
会社	3 (1.5)	
その他の法人	8 (4.1)	社会福祉法人=4, 医師会=2, 医療センター=1, 一般財団法人=1
その他	10 (5.1)	共済組合及びその連合会=5, 医療生協=3, 健康保険組合及びその連合会=1, 防衛省=1

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別病院数

保健医療圏域別で最も多いのは、「広島」78病院(39.8%)、次いで「福山・府中」39病院(19.9%)であった。(表2)

表2 保健医療圏域別病院数

(単位：病院(%))

保健医療圏域	病院数
計	196 (100.0)
広島	78 (39.8)
広島西	11 (5.6)
呉	23 (11.7)
広島中央	17 (8.7)
尾三	19 (9.7)
福山・府中	39 (19.9)
備北	9 (4.6)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 稼働病床規模別病院数

稼働病床（以下「病床」という。）規模別で最も多いのは、「100床～199床」が75病院（38.3%）、次いで「99床以下」が70病院（35.7%）で、200床未満が全体の74%であった。（表3）

表3 病床規模別病院数
（単位：病院（%））

病床規模	病院数
計	196 (100.0)
99床以下	70 (35.7)
100～199床	75 (38.3)
200～299床	25 (12.8)
300～399床	14 (7.1)
400～499床	5 (2.6)
500床以上	7 (3.6)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

2 看護職員の状況

令和4年4月1日現在の看護職員の状況は次のとおりであった。

1) 正規・正規以外別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

正規・正規以外別・職種別看護職員数の実人員は23,983人で、「正規」21,625人（90.2%）、「正規以外」2,358人（9.8%）であった。（表4-①）

換算数は22,492.8人で、「正規」20,729.6人（92.2%）、「正規以外」1,763.2人（7.8%）であった。（表4-②）

表4-① 正規・正規以外別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	23,983 (100.0)	120 (0.5)	510 (2.1)	20,951 (87.4)	2,402 (10.0)
正規	21,625 (90.2)	104 (0.4)	475 (2.0)	19,160 (79.9)	1,886 (7.9)
（男性）	2,563 (10.7)	10 (0.0)		2,316 (9.7)	237 (1.0)
正規以外	2,358 (9.8)	16 (0.1)	35 (0.1)	1,791 (7.5)	516 (2.2)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表4-② 正規・正規以外別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	22,492.8 (100.0)	113.0 (0.5)	477.1 (2.1)	19,689.6 (87.5)	2,213.2 (9.8)
正規	20,729.6 (92.2)	100.7 (0.4)	450.3 (2.0)	18,347.7 (81.6)	1,830.9 (8.1)
正規以外	1,763.2 (7.8)	12.3 (0.1)	26.8 (0.1)	1,341.9 (6.0)	382.3 (1.7)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

保健医療圏域別・職種別看護職員の実人員で最も多いのは「広島」10,932人(45.6%)、職種別では「看護師」9,776人(40.8%)、次いで「福山・府中」4,115人(17.2%)、職種別では「看護師」3,478人(14.5%)であった。(表5-①)

換算数でみると、最も多いのは「広島」10,237.4人(45.5%)、職種別では「看護師」9,148.1人(40.7%)、次いで「福山・府中」3,770.8人(16.8%)、職種別では「看護師」3,195.1人(14.2%)であった。(表5-②) また、看護職員の正規の実人員・換算数でも同様の傾向であった。(表5-③)(表5-④)

表5-① 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（実人員）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	23,983 (100.0)	120 (0.5)	510 (2.1)	20,951 (87.4)	2,402 (10.0)
広島	10,932 (45.6)	67 (0.3)	245 (1.0)	9,776 (40.8)	844 (3.5)
広島西	1,518 (6.3)	6 (0.0)	23 (0.1)	1,395 (5.8)	94 (0.4)
呉	2,579 (10.8)	25 (0.1)	56 (0.2)	2,188 (9.1)	310 (1.3)
広島中央	1,650 (6.9)	4 (0.0)	30 (0.1)	1,435 (6.0)	181 (0.8)
尾三	2,313 (9.6)	5 (0.0)	38 (0.2)	1,952 (8.1)	318 (1.3)
福山・府中	4,115 (17.2)	6 (0.0)	89 (0.4)	3,478 (14.5)	542 (2.3)
備北	876 (3.7)	7 (0.0)	29 (0.1)	727 (3.0)	113 (0.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表5-② 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（換算数）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	22,492.8 (100.0)	113.0 (0.5)	477.1 (2.1)	19,689.6 (87.5)	2,213.2 (9.8)
広島	10,237.4 (45.5)	64.3 (0.3)	232.0 (1.0)	9,148.1 (40.7)	793.0 (3.5)
広島西	1,473.1 (6.5)	5.8 (0.0)	23.0 (0.1)	1,356.6 (6.0)	87.7 (0.4)
呉	2,436.4 (10.8)	22.9 (0.1)	53.6 (0.2)	2,083.5 (9.3)	276.4 (1.2)
広島中央	1,553.2 (6.9)	3.8 (0.0)	29.3 (0.1)	1,353.1 (6.0)	167.0 (0.7)
尾三	2,187.8 (9.7)	5.0 (0.0)	34.9 (0.2)	1,860.6 (8.3)	287.3 (1.3)
福山・府中	3,770.8 (16.8)	6.0 (0.0)	76.7 (0.3)	3,195.1 (14.2)	493.1 (2.2)
備北	834.2 (3.7)	5.2 (0.0)	27.6 (0.1)	692.7 (3.1)	108.7 (0.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 5-③ 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,625 (100.0)	104 (0.5)	475 (2.2)	19,160 (88.6)	1,886 (8.7)
広島	9,968 (46.1)	58 (0.3)	231 (1.1)	8,989 (41.6)	690 (3.2)
広島西	1,401 (6.5)	5 (0.0)	21 (0.1)	1,308 (6.0)	67 (0.3)
呉	2,278 (10.5)	22 (0.1)	55 (0.3)	1,959 (9.1)	242 (1.1)
広島中央	1,472 (6.8)	3 (0.0)	29 (0.1)	1,294 (6.0)	146 (0.7)
尾三	2,061 (9.5)	5 (0.0)	34 (0.2)	1,781 (8.2)	241 (1.1)
福山・府中	3,694 (17.1)	6 (0.0)	84 (0.4)	3,182 (14.7)	422 (2.0)
備北	751 (3.5)	5 (0.0)	21 (0.1)	647 (3.0)	78 (0.4)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 5-④ 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,729.6 (100.0)	100.7 (0.5)	450.3 (2.2)	18,347.7 (88.5)	1,830.9 (8.8)
広島	9,506.0 (45.9)	56.7 (0.3)	218.4 (1.1)	8,554.3 (41.3)	676.6 (3.3)
広島西	1,376.8 (6.6)	5.0 (0.0)	21.0 (0.1)	1,285.0 (6.2)	65.8 (0.3)
呉	2,226.8 (10.7)	21.0 (0.1)	52.8 (0.3)	1,919.0 (9.3)	234.0 (1.1)
広島中央	1,416.4 (6.8)	3.0 (0.0)	29.0 (0.1)	1,247.1 (6.0)	137.3 (0.7)
尾三	2,008.2 (9.7)	5.0 (0.0)	34.0 (0.2)	1,736.4 (8.4)	232.8 (1.1)
福山・府中	3,462.8 (16.7)	6.0 (0.0)	74.1 (0.4)	2,976.3 (14.4)	406.4 (2.0)
備北	732.6 (3.5)	4.0 (0.0)	21.0 (0.1)	629.6 (3.0)	78.0 (0.4)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 病床規模別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

病床規模別に看護職員数の「実人員」をみると、最も多いのは「100～199床」6,550人(27.3%)、次いで「500床以上」5,401人(22.5%)であった。また職種別にみると、最も多いのは「100～199床」の「看護師」で5,499人(22.9%)であった。(表6-①)

「換算数」でみると、最も多いのは「100～199床」6,094.7人(27.1%)、次いで「500床以上」5,102.6人(22.7%)であった。また職種別にみると、最も多いのは「100～199床」の「看護師」で5,147.2人(22.9%)であった。(表6-②) 病床規模別に「正規の実人員」をみると、最も多いのは「100～199床」5,635人(26.1%)、次いで「500床以上」の5,145人(23.8%)であった。また、職種別にみると最も多いのは「500床以上」の「看護師」で4,924人(22.8%)であった。(表6-③)

「正規の換算数」をみると、最も多いのは「100～199床」5,464.4人(26.4%)、次いで「500床以上」4,885.1人(23.6%)であった。また、職種別にみると最も多いのは「100～199床」の「看護師」で4,679.2人(22.6%)であった。(表6-④)

表6-① 病床規模別・職種別 看護職員数（実人員）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	23,983 (100.0)	120 (0.5)	510 (2.1)	20,951 (87.4)	2,402 (10.0)
99床以下	2,603 (10.9)	5 (0.0)	35 (0.1)	1,982 (8.3)	581 (2.4)
100～199床	6,550 (27.3)	48 (0.2)	4 (0.0)	5,499 (22.9)	999 (4.2)
200～299床	3,591 (15.0)	17 (0.1)	25 (0.1)	3,077 (12.8)	472 (2.0)
300～399床	3,645 (15.2)	42 (0.2)	136 (0.6)	3,148 (13.1)	319 (1.3)
400～499床	2,193 (9.1)	2 (0.0)	90 (0.4)	2,076 (8.7)	25 (0.1)
500床以上	5,401 (22.5)	6 (0.0)	220 (0.9)	5,169 (21.6)	6 (0.0)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表6-② 病床規模別・職種別 看護職員数（換算数）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	22,492.8 (100.0)	113.0 (0.5)	477.1 (2.1)	19,689.6 (87.5)	2,213.2 (9.8)
99床以下	2,377.6 (10.6)	5.0 (0.0)	30.6 (0.1)	1,821.6 (8.1)	520.4 (2.3)
100～199床	6,094.7 (27.1)	45.0 (0.2)	3.3 (0.0)	5,147.2 (22.9)	899.2 (4.0)
200～299床	3,401.0 (15.1)	16.5 (0.1)	21.5 (0.1)	2,908.6 (12.9)	454.4 (2.0)
300～399床	3,462.6 (15.4)	39.9 (0.2)	127.4 (0.6)	2,984.2 (13.3)	311.1 (1.4)
400～499床	2,054.4 (9.1)	0.8 (0.0)	85.6 (0.4)	1,944.9 (8.6)	23.1 (0.1)
500床以上	5,102.6 (22.7)	5.8 (0.0)	208.7 (0.9)	4,883.1 (21.7)	5.0 (0.0)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 6-③ 病床規模別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,625 (100.0)	104 (0.5)	475 (2.2)	19,160 (88.6)	1,886 (8.7)
99床以下	2,194 (10.1)	4 (0.0)	26 (0.1)	1,726 (8.0)	438 (2.0)
100～199床	5,635 (26.1)	41 (0.2)	2 (0.0)	4,827 (22.3)	765 (3.5)
200～299床	3,217 (14.9)	15 (0.1)	24 (0.1)	2,776 (12.8)	402 (1.9)
300～399床	3,396 (15.7)	38 (0.2)	121 (0.6)	2,970 (13.7)	267 (1.2)
400～499床	2,038 (9.4)	1 (0.0)	88 (0.4)	1,937 (9.0)	12 (0.1)
500床以上	5,145 (23.8)	5 (0.0)	214 (1.0)	4,924 (22.8)	2 (0.0)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 6-④ 病床規模別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,729.6 (100.0)	100.7 (0.5)	450.3 (2.2)	18,347.7 (88.5)	1,830.9 (8.8)
99床以下	2,107.7 (10.2)	4.0 (0.0)	23.0 (0.1)	1,656.0 (8.0)	424.7 (2.0)
100～199床	5,464.4 (26.4)	39.9 (0.2)	2.0 (0.0)	4,679.2 (22.6)	743.3 (3.6)
200～299床	3,097.8 (14.9)	14.8 (0.1)	21.0 (0.1)	2,670.6 (12.9)	391.4 (1.9)
300～399床	3,253.2 (15.7)	37.0 (0.2)	117.3 (0.6)	2,841.4 (13.7)	257.5 (1.2)
400～499床	1,921.4 (9.3)	—	83.6 (0.4)	1,825.8 (8.8)	12.0 (0.1)
500床以上	4,885.1 (23.6)	5.0 (0.0)	203.4 (1.0)	4,674.7 (22.6)	2.0 (0.0)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 正規看護職員数の推移（実人員・換算数）

正規看護職員の推移をみると、令和4年度は令和3年度に比べ「実人員」は3人減少した。「保健師」は3人増加し、「助産師」は13人、「准看護師」は48人減少した。「看護師」は実人員では55人増え、換算数も94.7人増加している。（表7）

表 7 正規看護職員数の推移

（単位：人）

年度	令和3年4月1日現在					令和4年4月1日現在				
	計	保健師	助産師	看護師	准看護師	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
実人員	21,628	101	488	19,105	1,934	21,625	104	475	19,160	1,886
対前年度						▲ 3	3	▲ 13	55	▲ 48
換算数	20,680.1	80.1	453.3	18,253.0	1,893.7	20,729.6	100.7	450.3	18,347.7	1,830.9
対前年度						49.5	20.6	▲ 3.0	94.7	▲ 62.8

3 令和4年度採用状況

令和4年4月1日から4月30日までの正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1) 新卒者・既卒者別採用状況

採用者数は1,442人で、その内訳は「新卒者」1,121人(77.7%)、「既卒者」321人(22.3%)であった。(表8)

表8 新卒者・既卒者別・職種別 採用者数

(単位：人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	1,442	(100.0)	3	(0.2)	40	(2.8)	1,320	(91.5)	79	(5.5)
新卒者	1,121	(77.7)	3	(0.2)	29	(2.0)	1,031	(71.5)	58	(4.0)
既卒者	321	(22.3)	—	—	11	(0.8)	289	(20.0)	21	(1.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別採用状況

保健医療圏域別の採用状況をみると、新卒者の採用が最も多かったのは「広島」で555人(49.5%)、次いで「福山・府中」177人(15.8%)であった。一方、最も低かったのは「備北」41人(3.7%)であった。既卒者の採用が最も多かったのは「広島」で115人(35.8%)、次いで「福山・府中」67人(20.9%)であった。一方、最も低かったのは「備北」で12人(3.7%)であった。(表9)

表9 保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 採用状況

(単位：人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,121	321	3	—	29	11	1,031	289	58	21
	(100.0)	(100.0)	(0.3)	—	(2.6)	(3.4)	(92.0)	(90.0)	(5.2)	(6.5)
広島	555	115	3	—	13	4	519	100	20	11
	(49.5)	(35.8)	(0.3)	—	(1.2)	(1.2)	(46.3)	(31.2)	(1.8)	(3.4)
広島西	81	14	—	—	—	—	78	13	3	1
	(7.2)	(4.4)	—	—	—	—	(7.0)	(4.0)	(0.3)	(0.3)
呉	176	29	—	—	3	—	158	27	15	2
	(15.7)	(9.0)	—	—	(0.3)	—	(14.1)	(8.4)	(1.3)	(0.6)
広島中央	47	20	—	—	1	2	44	17	2	1
	(4.2)	(6.2)	—	—	(0.1)	(0.6)	(3.9)	(5.3)	(0.2)	(0.3)
尾三	44	64	—	—	1	1	40	62	3	1
	(3.9)	(19.9)	—	—	(0.1)	(0.3)	(3.6)	(19.3)	(0.3)	(0.3)
福山・府中	177	67	—	—	9	2	153	61	15	4
	(15.8)	(20.9)	—	—	(0.8)	(0.6)	(13.6)	(19.0)	(1.3)	(1.2)
備北	41	12	—	—	2	2	39	9	—	1
	(3.7)	(3.7)	—	—	(0.2)	(0.6)	(3.5)	(2.8)	—	(0.3)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

4 正規・常勤看護職員の状況

1) 正規看護職員の平均年齢（令和3年度）

令和3年4月1日現在の平均年齢は42.2歳で、平均年齢が最も低い病院は30.3歳、最も高い病院は59.6歳であった。（表10-①）

平均年齢を保健医療圏域別にみると、「広島」で「35～39歳」が最も多く、「広島西」「呉」「広島中央」で「40～44歳」「45～49歳」が最も多く、「尾三」で「40～44歳」が最も多く、「福山・府中」「備北」で「45～49歳」が最も多かった。（表10-②）

平均年齢を病床規模別にみると、「99床以下」では「45～49歳」が最も多く、「100～199床」「200～299床」では「40～44歳」が最も多く、「300～399床」「400～499床」「500床以上」では「35～39歳」が最も多かった。（表10-③）

表10-① 平均年齢（正規）

平均年齢	最も低い	最も高い
42.2歳	30.3歳	59.6歳

注 令和3年4月1日現在の実績

表10-② 平均年齢別・保健医療圏域別 病院数（正規）

（単位：病院（%））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	196 (100.0)	78 (39.8)	11 (5.6)	23 (11.7)	17 (8.7)	19 (9.7)	39 (19.9)	9 (4.6)
～29歳	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
30～34歳	15 (7.7)	7 (3.6)	2 (1.0)	3 (1.5)	— —	— —	3 (1.5)	— —
35～39歳	53 (27.0)	29 (14.8)	1 (0.5)	3 (1.5)	3 (1.5)	4 (2.0)	11 (5.6)	2 (1.0)
40～44歳	62 (31.6)	20 (10.2)	4 (2.0)	8 (4.1)	7 (3.6)	9 (4.6)	11 (5.6)	3 (1.5)
45～49歳	59 (30.1)	18 (9.2)	4 (2.0)	8 (4.1)	7 (3.6)	6 (3.1)	12 (6.1)	4 (2.0)
50～54歳	5 (2.6)	2 (1.0)	— —	1 (0.5)	— —	— —	2 (1.0)	— —
55歳以上	2 (1.0)	2 (1.0)	— —	— —	— —	— —	— —	— —

注1 令和3年4月1日現在の実績

注2 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 10-③ 平均年齢別・病床規模別 病院数（正規）

（単位：病院（％））

区分	計	99床以下	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上
計	196 (100.0)	70 (35.7)	75 (38.3)	25 (12.8)	14 (7.1)	5 (2.6)	7 (3.6)
～29歳	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
30～34歳	15 (7.7)	1 (0.5)	5 (2.6)	2 (1.0)	2 (1.0)	2 (1.0)	3 (1.5)
35～39歳	53 (27.0)	11 (5.6)	24 (12.2)	5 (2.6)	6 (3.1)	3 (1.5)	4 (2.0)
40～44歳	62 (31.6)	21 (10.7)	28 (14.3)	9 (4.6)	4 (2.0)	— —	— —
45～49歳	59 (30.1)	35 (17.9)	15 (7.7)	7 (3.6)	2 (1.0)	— —	— —
50～54歳	5 (2.6)	1 (0.5)	2 (1.0)	2 (1.0)	— —	— —	— —
55歳以上	2 (1.0)	1 (0.5)	1 (0.5)	— —	— —	— —	— —

注1 令和3年4月1日現在の実績

注2 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 常勤看護職員の時間外勤務

(1) 時間外勤務時間の平均と最長

一人当たり月平均時間外勤務時間は4.2時間、最長は70.0時間であった。(表11)

表 11 一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）

平均	最長
4.2時間	70.0時間

注 令和4年10月の実績である

(2) 時間外勤務時間数・病床規模別病院数の割合

病床規模別一人当たり月平均の時間外勤務時間数をみると、最も多かったのは「4時間未満」で108病院(55.1%)、次いで「4～8時間未満」で59病院(30.1%)であった。病床規模別の割合をみると「4時間未満」では「99床以下」「100～199床」、**「4～8時間未満」では「99床以下」の割合が高かった。**(表12-①)

最長の時間外勤務時間数別病院数をみると、最も多かったのは「20時間以上」で78病院(39.8%)、次いで「4時間未満」で44病院(22.4%)であった。病床規模別の割合をみると「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「20時間以上」であった。(表12-②)

「20時間以上」の内訳をみると、最も多かったのは「30～40時間未満」で28病院(35.9%)であった。(表12-③)

表12-① 病床規模別一人当たり月平均時間外勤務時間(常勤)

(単位：病院(%))

区分	計	4時間未満	4～8時間未満	8～12時間未満	12～16時間未満	16～20時間未満	20時間以上
計	196 (100.0)	108 (55.1)	59 (30.1)	21 (10.7)	3 (1.5)	5 (2.6)	— —
99床以下	70 (35.7)	42 (21.4)	23 (11.7)	4 (2.0)	1 (0.5)	— —	— —
100～199床	75 (38.3)	42 (21.4)	22 (11.2)	7 (3.6)	— —	4 (2.0)	— —
200～299床	25 (12.8)	16 (8.2)	8 (4.1)	1 (0.5)	— —	— —	— —
300～399床	14 (7.1)	6 (3.1)	5 (2.6)	2 (1.0)	1 (0.5)	— —	— —
400～499床	5 (2.6)	1 (0.5)	— —	3 (1.5)	1 (0.5)	— —	— —
500床以上	7 (3.6)	1 (0.5)	1 (0.5)	4 (2.0)	— —	1 (0.5)	— —

注1 令和4年10月の実績である

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 12-② 病床規模別一人当たり時間外勤務時間の最長時間数（常勤）

（単位：病院（％））

区分	計	4時間未満	4～8時間 未満	8～12時間 未満	12～16時間 未満	16～20時間 未満	20時間 以上
計	196 (100.0)	44 (22.4)	19 (9.7)	21 (10.7)	13 (6.6)	21 (10.7)	78 (39.8)
99床以下	70 (35.7)	24 (12.2)	5 (2.6)	9 (4.6)	7 (3.6)	13 (6.6)	12 (6.1)
100～199床	75 (38.3)	12 (6.1)	8 (4.1)	8 (4.1)	5 (2.6)	5 (2.6)	37 (18.9)
200～299床	25 (12.8)	6 (3.1)	6 (3.1)	1 (0.5)	—	3 (1.5)	9 (4.6)
300～399床	14 (7.1)	2 (1.0)	—	3 (1.5)	1 (0.5)	—	8 (4.1)
400～499床	5 (2.6)	—	—	—	—	—	5 (2.6)
500床以上	7 (3.6)	—	—	—	—	—	7 (3.6)

注1 令和4年10月の実績である

注2 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 12-③ 病床規模別一人当たり時間外勤務時間（最長20時間以上）（常勤）

（単位：病院（％））

区分	計	20～25時間 未満	25～30時間 未満	30～40時間 未満	40～50時間 未満	50～60時間 未満	60時間以上
計	78 (100.0)	20 (25.6)	17 (21.8)	28 (35.9)	7 (9.0)	3 (3.8)	3 (3.8)
99床以下	12 (15.4)	4 (5.1)	4 (5.1)	3 (3.8)	1 (1.3)	—	—
100～199床	37 (47.4)	11 (14.1)	8 (10.3)	11 (14.1)	4 (5.1)	2 (2.6)	1 (1.3)
200～299床	9 (11.5)	2 (2.6)	2 (2.6)	2 (2.6)	2 (2.6)	—	1 (1.3)
300～399床	8 (10.3)	2 (2.6)	—	5 (6.4)	—	—	1 (1.3)
400～499床	5 (6.4)	—	2 (2.6)	3 (3.8)	—	—	—
500床以上	7 (9.0)	1 (1.3)	1 (1.3)	4 (5.1)	—	1 (1.3)	—

注1 令和4年10月の実績である

注2 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 正規看護職員の年次有給休暇取得状況

(1) 一人平均取得日数

令和3年度における年次有給休暇の一人平均取得日数の平均は11.4日、最多が21.6日、最少が1.0日であった。平均で見ると平成27年度まで変動がなかったが、平成28年度から再び増加した。(表13)

表13 年次有給休暇一人平均取得日数の推移

区分	平均	最多	最少
令和3年度	11.4日	21.6日	1.0日
令和2年度	11.0日	24.8日	0.0日
令和元年度	11.2日	23.9日	1.0日
平成30年度	10.4日	19.9日	0.8日
平成29年度	10.2日	20.3日	1.0日
平成28年度	10.1日	24.2日	0.0日
平成27年度	9.9日	20.8日	0.0日
平成26年度	9.9日	26.0日	0.8日
平成25年度	9.9日	41.6日	0.2日

(2) 時間単位の取得

令和3年度における年次有給休暇が時間単位で取得できる病院は155病院(79.1%)であった。割合で見ると平成25年度より年々高くなっていった。(表14)

表14 年次有給休暇，時間単位の取得病院数

区分	計		できる		できない	
令和3年	196	(100.0)	155	(79.1)	41	(20.9)
令和2年	193	(100.0)	152	(78.8)	41	(21.2)
令和元年	191	(100.0)	150	(78.5)	41	(21.5)
平成30年	185	(100.0)	144	(77.8)	41	(22.2)
平成29年	185	(100.0)	143	(77.3)	42	(22.7)
平成28年	190	(100.0)	144	(75.8)	46	(24.2)
平成27年	189	(100.0)	136	(72.0)	53	(28.0)
平成26年	191	(100.0)	88	(46.1)	103	(53.9)
平成25年	209	(100.0)	96	(45.9)	113	(54.1)

5 勤務形態からみた夜勤回数別夜勤人数

1) 常勤看護職員夜勤人数等

「3交代(変則3交代含む)」で夜勤回数0回の施設は51病院の974人、最も多かったのは夜勤回数7回以下で67病院の2,112人であった。「2交代(変則2交代含む)」で夜勤回数0回の施設は115病院の2,211人、最も多かったのは夜勤回数5回で154病院の2,104人であった。(表15-①, 表15-②, 表15-③)

表15-① 常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数(複数回答)

区分	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
病院数	51	67	57	56	45	43	115	146	147	154	131
人数	974	2,112	1,631	1,140	790	529	2,211	1,429	2,157	2,104	1,762

注1 常勤看護職員夜勤人数は「新卒含む/夜勤専従者を除く」数字である。

注2 人数は、交代制勤務の指定夜勤回数に該当する看護職員数である。

注3 夜勤回数は令和4年10月実績である。

表15-② 病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数(複数回答)

(単位:病院)

区分	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
計	51	67	57	56	45	43	115	146	147	154	131
99床以下	9	14	11	9	8	10	32	48	50	57	45
100~199床	15	21	18	16	13	14	51	62	60	62	59
200~299床	11	13	10	12	12	10	15	19	19	18	15
300~399床	5	7	6	7	5	4	10	10	11	11	9
400~499床	5	5	5	5	3	1	2	2	2	2	—
500床以上	6	7	7	7	4	4	5	5	5	4	3

表15-③ 病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤人数(複数回答)

(単位:人)

区分	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
計	974	2,112	1,631	1,140	790	529	2,211	1,429	2,157	2,104	1,762
99床以下	60	93	54	52	36	72	262	152	306	285	255
100~199床	222	281	215	150	133	173	822	463	621	707	821
200~299床	164	272	123	154	124	119	366	242	307	334	294
300~399床	143	358	364	190	66	22	335	246	278	326	248
400~499床	166	450	384	191	140	33	21	70	80	6	—
500床以上	219	658	491	403	291	110	405	256	565	446	144

2) 夜勤専従者の有無

夜勤専従者がいる病院は 77 病院 (39.3%)、「正規看護職員のみ」が 50 病院 (25.5%)、「正規以外看護職員のみ」が 14 病院 (7.1%)、「正規・正規以外看護職員」が 13 病院 (6.6%)であった。夜勤専従者数は、「実人員」が 588 人、「延べ人員」が「3 交代(変則 3 交代含む)」は 8,675 人、「2 交代(変則 2 交代含む)」は 17,428 人であった。(表 16-①, 表 16-②)

表 16-① 夜勤専従者の有無

(単位：病院 (%))

区分	計	夜勤専従者がいる	夜勤専従者がいない
計	196 (100.0)	77 (39.3)	119 (60.7)
正規看護職員のみ	/	50 (25.5)	119 (60.7)
正規以外看護職員のみ		14 (7.1)	
正規・正規以外看護職員		13 (6.6)	

注 1 令和 3 年度の実績である

注 2 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 16-② 夜勤専従者の人数

(単位：人)

区分	実人員	延べ回数	
		3 交代 (変則 3 交代含む)	2 交代 (変則 2 交代含む)
計	588	8,675	17,428
正規看護職員のみ	441	5,685	13,286
正規以外看護職員のみ	31	748	1,224
正規・正規以外 看護職員	正規看護職員	86	1,898
	正規以外看護職員	30	344

注 令和 3 年度の実績である

6 看護職員の採用状況

令和3年度の正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1) 看護職員採用者数

採用者数は2,454人で、内訳をみると「正規看護職員」が「新卒者」1,165人(47.5%)、「既卒者」938人(38.2%)、「正規看護職員以外」は351人(14.3%)であった。(表17)

表17 新卒者・既卒者別・職種別 採用者数(令和3年度)

(単位:人(%))

区分		計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計		2,454 (100.0)	3 (0.1)	49 (2.0)	2,147 (87.5)	255 (10.4)
正規看護職員	新卒者数	1,165 (47.5)	— —	37 (1.5)	1,048 (42.7)	80 (3.3)
	既卒者数	938 (38.2)	1 (0.0)	7 (0.3)	818 (33.3)	112 (4.6)
正規看護職員以外		351 (14.3)	2 (0.1)	5 (0.2)	281 (11.5)	63 (2.6)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 正規看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

採用者数は「新卒者」が1,165人、「既卒者」が938人で、保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」で「新卒者」588人(50.5%)、「既卒者」423人(45.1%)であった。(表18)

表18 保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況(令和3年度)

(単位:人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,165 (100.0)	938 (100.0)	— —	1 (0.1)	37 (3.2)	7 (0.7)	1,048 (90.0)	818 (87.2)	80 (6.9)	112 (11.9)
広島	588 (50.5)	423 (45.1)	— —	— —	16 (1.4)	3 (0.3)	538 (46.2)	360 (38.4)	34 (2.9)	60 (6.4)
広島西	99 (8.5)	48 (5.1)	— —	— —	— —	— —	95 (8.2)	45 (4.8)	4 (0.3)	3 (0.3)
呉	172 (14.8)	73 (7.8)	— —	— —	6 (0.5)	— —	146 (12.5)	68 (7.2)	20 (1.7)	5 (0.5)
広島中央	73 (6.3)	102 (10.9)	— —	— —	3 (0.3)	— —	64 (5.5)	86 (9.2)	6 (0.5)	16 (1.7)
尾三	29 (2.5)	78 (8.3)	— —	1 (0.1)	1 (0.1)	— —	26 (2.2)	65 (6.9)	2 (0.2)	12 (1.3)
福山・府中	178 (15.3)	178 (19.0)	— —	— —	10 (0.9)	2 (0.2)	154 (13.2)	163 (17.4)	14 (1.2)	13 (1.4)
備北	26 (2.2)	36 (3.8)	— —	— —	1 (0.1)	2 (0.2)	25 (2.1)	31 (3.3)	— —	3 (0.3)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

病床規模別に採用者数をみると、「新卒者」で最も多かったのは「500床以上」で365人(31.3%)、「既卒者」で最も多かったのは「100～199床」で427人(45.5%)であった。(表19)

表19 病床規模別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況(令和3年度)

(単位:人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,165 (100.0)	938 (100.0)	— —	1 (0.1)	37 (3.2)	7 (0.7)	1,048 (90.0)	818 (87.2)	80 (6.9)	112 (11.9)
99床以下	45 (3.9)	212 (22.6)	— —	— —	2 (0.2)	4 (0.4)	26 (2.2)	186 (19.8)	17 (1.5)	22 (2.3)
100～199床	282 (24.2)	427 (45.5)	— —	— —	— —	— —	236 (20.3)	381 (40.6)	46 (3.9)	46 (4.9)
200～299床	128 (11.0)	119 (12.7)	— —	— —	2 (0.2)	— —	113 (9.7)	92 (9.8)	13 (1.1)	27 (2.9)
300～399床	177 (15.2)	129 (13.8)	— —	1 (0.1)	9 (0.8)	3 (0.3)	165 (14.2)	108 (11.5)	3 (0.3)	17 (1.8)
400～499床	168 (14.4)	23 (2.5)	— —	— —	8 (0.7)	— —	159 (13.6)	23 (2.5)	1 (0.1)	— —
500床以上	365 (31.3)	28 (3.0)	— —	— —	16 (1.4)	— —	349 (30.0)	28 (3.0)	— —	— —

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 正規以外看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

採用者数は351人で、保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」で187人(53.3%)であった。(表20)

表 20 保健医療圏域別 正規以外看護職員採用状況（令和 3 年度）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	351 (100.0)	2 (0.6)	5 (1.4)	281 (80.1)	63 (17.9)
広島	187 (53.3)	1 (0.3)	1 (0.3)	160 (45.6)	25 (7.1)
広島西	13 (3.7)	— —	— —	9 (2.6)	4 (1.1)
呉	34 (9.7)	— —	— —	25 (7.1)	9 (2.6)
広島中央	12 (3.4)	1 (0.3)	— —	10 (2.8)	1 (0.3)
尾三	40 (11.4)	— —	— —	34 (9.7)	6 (1.7)
福山・府中	51 (14.5)	— —	1 (0.3)	35 (10.0)	15 (4.3)
備北	14 (4.0)	— —	3 (0.9)	8 (2.3)	3 (0.9)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

病床規模別に採用者数をみると、最も多かったのは「100～199床」で 179 人（51.0%）であった。（表 21）

表 21 病床規模別 正規以外看護職員採用状況（令和 3 年度）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	351 (100.0)	2 (0.6)	5 (1.4)	281 (80.1)	63 (17.9)
99 床以下	47 (13.4)	— —	— —	32 (9.1)	15 (4.3)
100～199 床	179 (51.0)	1 (0.3)	— —	141 (40.2)	37 (10.5)
200～299 床	52 (14.8)	— —	— —	48 (13.7)	4 (1.1)
300～399 床	30 (8.5)	— —	3 (0.9)	20 (5.7)	7 (2.0)
400～499 床	13 (3.7)	1 (0.3)	— —	12 (3.4)	— —
500 床以上	30 (8.5)	— —	2 (0.6)	28 (8.0)	— —

注 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

7 看護職員の離職状況

令和3年度の正規看護職員の離職状況は次のとおりである。

1) 正規看護職員離職者数

正規看護職員の離職者数は2,123人、内訳をみると定年退職者は195人(9.2%)、新卒離職者は137人(6.5%)であった。定年退職・新卒離職者以外は1,791人(84.4%)であった。(表22)

表22 正規看護職員離職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
離職者数	2,123	3	49	1,787	284
	(100.0)	(0.1)	(2.3)	(84.2)	(13.4)
(1) 定年退職者数	195	—	—	150	45
(定年退職者の割合)	(9.2)	—	—	(7.1)	(2.1)
(2) 新卒離職者数	137	—	2	119	16
(新卒離職者の割合)	(6.5)	—	(0.1)	(5.6)	(0.8)
(3) (1), (2)以外離職者数	1,791	3	47	1,518	223
((1), (2)以外離職者の割合)	(84.4)	(0.1)	(2.2)	(71.5)	(10.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

離職者数は2,123人で、離職率は9.9%であった。保健医療圏域別にみると、離職者数が最も多かったのは「広島」1,011人、離職率が最も高かったのは「呉」11.2%であった。(表23)

表23 保健医療圏域別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	2,123 (9.9)	3	49	1,787	284
広島	1,011 (10.2)	—	19	860	132
広島西	137 (9.9)	—	6	123	8
呉	253 (11.2)	—	10	213	30
広島中央	120 (8.1)	—	2	103	15
尾三	164 (8.1)	2	2	136	24
福山・府中	372 (10.2)	—	4	303	65
備北	66 (8.7)	1	6	49	10

注 離職者数は定年退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

病床規模別にみると、離職者数が最も多かったのは「100～199床」705人であった。離職率が最も高かったのは「100～199床」12.5%であった。(表24)

表24 病床規模別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	2,123	(9.9)	3	49	1,787	284
99床以下	252	(11.4)	—	2	198	52
100～199床	705	(12.5)	1	—	564	140
200～299床	274	(8.7)	—	1	222	51
300～399床	321	(9.5)	2	13	270	36
400～499床	200	(10.1)	—	7	191	2
500床以上	371	(7.3)	—	26	342	3

注 離職者数は定年退職者を含む

2) 定年退職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職者数

定年退職者数は195人で、保健医療圏別にみると、最も多かったのは「広島」66人(33.8%)、うち55人が「看護師」であった。(表25)

表25 保健医療圏域別・職種別 正規看護職員定年退職者数

(単位：人(%))

区分	計		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	195	(100.0)	—	—	150	45
広島	66	(33.8)	—	—	55	11
広島西	13	(6.7)	—	—	8	5
呉	16	(8.2)	—	—	13	3
広島中央	19	(9.7)	—	—	13	6
尾三	38	(19.5)	—	—	31	7
福山・府中	34	(17.4)	—	—	25	9
備北	9	(4.6)	—	—	5	4

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職者数

病床規模別定年退職者数をみると、最も多かったのは「100～199床」で62人(31.8%)、次いで「300～399床」33人(16.9%)であった。(表26)

表26 病床規模別・職種別 正規看護職員定年退職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	195 (100.0)	—	—	150	45
99床以下	13 (6.7)	—	—	6	7
100～199床	62 (31.8)	—	—	44	18
200～299床	31 (15.9)	—	—	25	6
300～399床	33 (16.9)	—	—	23	10
400～499床	28 (14.4)	—	—	27	1
500床以上	28 (14.4)	—	—	25	3

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 新卒看護職員の離職者数・離職率

新卒看護職員の離職者数は137人、離職率は11.8%であった。保健医療圏域別にみると、離職率が最も高かったのは「呉」で15.1%であった。最も低かったのは「尾三」で6.9%であった。(表27-①)

病床規模別にみると、離職率が最も高かったのは「99床以下」で26.7%であった。最も低かったのは「400～499床」で6.0%であった。(表27-②)

表27-① 保健医療圏域別 正規看護職員新卒離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	広島	広島西	呉	広島 中央	尾三	福山・ 府中	備北
新卒採用者数	1,165	588	99	172	73	29	178	26
新卒離職者数	137	63	9	26	10	2	24	3
離職率(%)	(11.8)	(10.7)	(9.1)	(15.1)	(13.7)	(6.9)	(13.5)	(11.5)

表27-② 病床規模別・職種別 正規看護職員新卒離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	99床 以下	100～ 199床	200～ 299床	300～ 399床	400～ 499床	500床 以上
新卒採用者数	1,165	45	282	128	177	168	365
新卒離職者数	137	12	47	18	22	10	28
離職率(%)	(11.8)	(26.7)	(16.7)	(14.1)	(12.4)	(6.0)	(7.7)

4) 定年退職及び新卒離職以外の離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

保健医療圏域別離職者数をみると、最も多かったのは「広島」882人(49.2%)、うち754人が「看護師」であった。(表28)

表28 保健医療圏域別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,791 (100.0)	3	47	1,518	223
広島	882 (49.2)	—	18	754	110
広島西	115 (6.4)	—	6	106	3
呉	211 (11.8)	—	10	175	26
広島中央	91 (5.1)	—	2	81	8
尾三	124 (6.9)	2	2	103	17
福山・府中	314 (17.5)	—	4	257	53
備北	54 (3.0)	1	5	42	6

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

病床規模別離職者数をみると、最も多かったのは「100～199床」596人(33.3%)、うち482人が「看護師」であった。次いで「500床以上」315人(17.6%)、うち290人が「看護師」であった。(表29)

表29 病床規模別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,791 (100.0)	3	47	1,518	223
99床以下	227 (12.7)	—	2	184	41
100～199床	596 (33.3)	1	—	482	113
200～299床	225 (12.6)	—	1	181	43
300～399床	266 (14.9)	2	12	227	25
400～499床	162 (9.0)	—	7	154	1
500床以上	315 (17.6)	—	25	290	—

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

5) 正規以外看護職員離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

離職者数は428人で、離職率は17.8%であった。保健医療圏域別にみると、離職者数が最も多かったのは「広島」で229人、離職率が最も高かったのも「広島」で22.2%であった。(表30)

表30 保健医療圏域別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	428 (17.8)	3	6	333	86
広島	229 (22.2)	1	—	195	33
広島西	14 (12.6)	—	—	11	3
呉	35 (11.5)	—	—	24	11
広島中央	21 (12.6)	1	1	10	9
尾三	39 (16.0)	1	2	30	6
福山・府中	70 (16.5)	—	2	47	21
備北	20 (16.5)	—	1	16	3

注 離職者数は契約期間満了退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

病床規模別にみると、離職者数が最も多かったのは「100～199床」で197人であった。離職率が最も高かったのは「200～299床」で20.9%であった。(表31)

表31 病床規模別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	428 (17.8)	3	6	333	86
99床以下	57 (14.6)	—	—	37	20
100～199床	197 (20.7)	1	1	146	49
200～299床	82 (20.9)	—	1	70	11
300～399床	29 (12.3)	1	2	22	4
400～499床	18 (10.4)	1	1	14	2
500床以上	45 (17.2)	—	1	44	—

注 離職者数は契約期間満了退職者を含む

8 特別休暇等の取得状況

令和3年度の正規看護職員の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

1) 育児休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別育児休業取得職員数

令和4年3月31日現在の育児休業取得職員数は1,305人(6.1%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」692人、うち661人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」211人、うち198人が「看護師」であった。(表32)

表32 保健医療圏域別・職種別 育児休業取得職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	1,305 (6.1)	5 (0.0)	36 (0.2)	1,229 (5.7)	35 (0.2)
広島	692 (3.2)	—	20	661	11
広島西	90 (0.4)	—	1	87	2
呉	107 (0.5)	3	4	92	8
広島中央	71 (0.3)	—	2	67	2
尾三	86 (0.4)	—	—	82	4
福山・府中	211 (1.0)	1	5	198	7
備北	48 (0.2)	1	4	42	1

注1 令和4年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別育児休業取得職員数

病床規模別の育児休業取得職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」457人、うち442人が「看護師」であった。次いで「100～199床」304人、うち283人が「看護師」であった。(表33)

表33 病床規模別・職種別 育児休業取得職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	1,305 (6.1)	5 (0.0)	36 (0.2)	1,229 (5.7)	35 (0.2)
99床以下	98 (0.5)	—	4	85	9
100～199床	304 (1.4)	1	—	283	20
200～299床	166 (0.8)	1	3	159	3
300～399床	169 (0.8)	3	6	157	3
400～499床	111 (0.5)	—	8	103	—
500床以上	457 (2.1)	—	15	442	—

注1 令和4年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 介護休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別介護休業取得職員数

令和4年3月31日現在の介護休業取得職員数は7人(0.0%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」4人、うち3人が「看護師」であった。(表34)

表34 保健医療圏域別・職種別 介護休業取得職員数 (実人員)

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	7 (0.0)	—	—	5 (0.0)	2 (0.0)
広島	4 (0.0)	—	—	3	1
広島西	—	—	—	—	—
呉	—	—	—	—	—
広島中央	1 (0.0)	—	—	—	1
尾三	2 (0.0)	—	—	2	—
福山・府中	—	—	—	—	—
備北	—	—	—	—	—

注1 令和4年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別介護休業取得職員数

病床規模別の介護休業取得職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」で、3人すべて「看護師」であった。(表35)

表35 病床規模別・職種別 介護休業取得職員数 (実人員)

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	7 (0.0)	—	—	5 (0.0)	2 (0.0)
99床以下	1 (0.0)	—	—	—	1
100～199床	1 (0.0)	—	—	—	1
200～299床	1 (0.0)	—	—	1	—
300～399床	1 (0.0)	—	—	1	—
400～499床	—	—	—	—	—
500床以上	3 (0.0)	—	—	3	—

注1 令和4年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 時間短縮勤務職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別時間短縮勤務職員数

令和4年3月31日現在の時間短縮勤務職員数は1,070人(5.0%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」524人、うち497人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」197人、うち180人が「看護師」であった。(表36)

表36 保健医療圏域別・職種別 時間短縮勤務中の職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規 看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	1,070 (5.0)	4 (0.0)	34 (0.2)	989 (4.6)	43 (0.2)
広島	524 (2.4)	2	18	497	7
広島西	67 (0.3)	—	—	66	1
呉	138 (0.6)	2	6	120	10
広島中央	32 (0.1)	—	—	30	2
尾三	82 (0.4)	—	2	68	12
福山・府中	197 (0.9)	—	7	180	10
備北	30 (0.1)	—	1	28	1

注1 令和4年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別時間短縮勤務職員数

病床規模別に時間短縮勤務職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」432人、うち412人が「看護師」であった。次いで「100～199床」200人、うち172人が「看護師」であった。(表37)

表37 病床規模別・職種別 時間短縮勤務中の職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規 看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	1,070 (5.0)	4 (0.0)	34 (0.2)	989 (4.6)	43 (0.2)
99床以下	69 (0.3)	—	—	60	9
100～199床	200 (0.9)	—	—	172	28
200～299床	130 (0.6)	2	1	123	4
300～399床	122 (0.6)	2	7	111	2
400～499床	117 (0.5)	—	6	111	—
500床以上	432 (2.0)	—	20	412	—

注1 令和4年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 病休・休職等職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別病休・休職等職員数

病休・休職等職員数は 649 人(3.0%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」265 人、うち 231 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」146 人、うち 134 人が「看護師」であった。(表 38)

表 38 保健医療圏域別・職種別 病休・休職等職員数 (実人員)

(単位：人 (%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規 看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	649 (3.0)	2 (0.0)	18 (0.1)	576 (2.7)	53 (0.2)
広島	265 (1.2)	1	8	231	25
広島西	27 (0.1)	—	—	23	4
呉	91 (0.4)	—	6	79	6
広島中央	29 (0.1)	—	—	29	—
尾三	53 (0.2)	—	—	50	3
福山・府中	146 (0.7)	—	2	134	10
備北	38 (0.2)	1	2	30	5

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別・職種別病休・休職等職員数

病床規模別の病休・休職等職員数をみると、最も多かったのは「100～199 床」172 人、うち 147 人が「看護師」であった。次いで「500 床以上」146 人、うち 136 が「看護師」であった。(表 39)

表 39 病床規模別・職種別 病休・休職等職員数 (実人員)

(単位：人 (%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規 看護職員数	21,430.0 (100.0)	95.5 (0.4)	473.5 (2.2)	18,874.0 (88.1)	1,987.0 (9.3)
計	649 (3.0)	2 (0.0)	18 (0.1)	576 (2.7)	53 (0.2)
99 床以下	47 (0.2)	—	—	33	14
100～199 床	172 (0.8)	1	—	147	24
200～299 床	86 (0.4)	—	1	75	10
300～399 床	85 (0.4)	1	3	77	4
400～499 床	113 (0.5)	—	4	108	1
500 床以上	146 (0.7)	—	10	136	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

9 母性保護、育児・介護休業に関する制度について

1) 制度の導入・利用について

(1) 母性保護制度の導入・利用の有無

母性保護制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は167病院(85.2%)であった。

「はい」と回答した病院のうち、最も多く導入されている制度は「夜勤・当直免除」で、160病院であった。最も多く利用があった制度も「夜勤・当直免除」で、131病院であった。(表40)

表40 母性保護制度の導入の有無
(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	196	(100.0)
※はい	167	(85.2)
いいえ	29	(14.8)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
夜勤・当直免除	160	131
夜勤・当直日数減	157	122
超過勤務免除	129	83
変形労働時間の適用除外	86	42
時差通勤	75	32
つわり休暇	49	22
通院休暇 (保健指導・検診受診時間の確保等)	88	44
配置転換	125	59
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内保育の食事代無料。 ・ 生理休暇。(2施設) ・ 制度はないが個別の申し出により対応している。(5施設) ・ WLB S休暇でつわり、通院に対応。 ・ 危険有害業務の就業制限。 ・ 業務軽減、妊娠中の休息・補食、保育時間。 ・ 通勤緩和。 		

(2) 育児休業制度の導入・利用の有無

育児休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は195病院(99.5%)であった。最も多く導入されている制度は「育児休業」で、195病院であった。最も多く利用があった制度も「育児休業」で、181病院であった。(表41)

表41 育児休業制度の導入の有無
(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	196	(100.0)
※はい	195	(99.5)
いいえ	1	(0.5)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
育児休業	195	181
子の看護休暇	170	131
所定外労働の制限	148	90
時間外労働制限	146	84
深夜業の制限	163	126
短時間勤務	179	142
フレックスタイム制	21	10
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	96	72
託児施設の設置運営	94	88
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病児保育, 病後児保育。 ・ 本人の希望により勤務時間, 働き方に対応。(2施設) ・ 妻の出産に伴う休暇。 ・ 男性の育児参加の休暇。 ・ 早出・遅出勤務。 ・ 職場復帰プログラム。 		

(3) 介護休業制度の導入・利用の有無

介護休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は185病院(94.4%)であった。「はい」と回答した病院のうち、最も多く導入されている制度は「介護休暇」で179病院であった。最も多く利用があった制度も「介護休暇」で82病院であった。(表42)

表42 介護休業制度の導入の有無
(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	196	(100.0)
※はい	185	(94.4)
いいえ	11	(5.6)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
介護休業	175	70
介護休暇	179	82
時間外労働の制限	133	32
深夜業の制限	132	36
短時間勤務	133	29
フレックスタイム制	20	6
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	73	19
介護サービス費用の助成	15	3
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人と相談し、シフトを組むようにしている。 ・ 早出遅出勤務。 ・ 所定時間外勤務の免除。 		

10 研修体制やキャリアアップに関する支援

1) 教育研修体制

「継続教育研修プログラム」が「あり」は 138 病院(70.4%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-①)

「看護部門における教育研修責任者の配置」が「あり」は 152 病院(77.6%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-②)

「病棟・外来などでの教育担当者の配置」が「あり」は 158 病院(80.6%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-③)

「新規採用者の教育研修計画」を対象者別にみると「新卒採用者」で「あり」は 161 病院(82.1%), うち「厚労省のガイドラインに沿った研修体制」が「あり」は 128 病院(65.3%)であった。「既卒採用者」で「あり」は 148 病院(75.5%), 「看護補助者」で「あり」は 145 病院(74.0%)であった。病床規模別にみると「新卒採用者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」, 「既卒採用者」で「400～499 床」ではすべての病院が「あり」, 「看護補助者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-④)

表 43-① 病床規模別継続教育研修プログラム

(単位：病院 (%))

区分	計	あり	なし
計	196 (100.0)	138 (70.4)	58 (29.6)
99 床以下	70 (35.7)	31	39
100～199 床	75 (38.3)	63	12
200～299 床	25 (12.8)	21	4
300～399 床	14 (7.1)	11	3
400～499 床	5 (2.6)	5	—
500 床以上	7 (3.6)	7	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 43-② 病床規模別看護部門における教育研修責任者の配置

(単位：病院 (%))

区分	計	あり			なし
		計	専従	兼任	
計	196 (100.0)	152 (77.6)	17 (8.7)	135 (68.9)	44 (22.4)
99 床以下	70 (35.7)	42	2	40	28
100～199 床	75 (38.3)	62	1	61	13
200～299 床	25 (12.8)	23	1	22	2
300～399 床	14 (7.1)	13	5	8	1
400～499 床	5 (2.6)	5	3	2	—
500 床以上	7 (3.6)	7	5	2	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 43-③ 病床規模別病棟・外来などでの教育担当者の配置

(単位：病院 (%))

区分	計	あり			なし
		計	専従	兼任	
計	196 (100.0)	158 (80.6)	— —	158 (80.6)	38 (19.4)
99床以下	70 (35.7)	49	—	49	21
100～199床	75 (38.3)	65	—	65	10
200～299床	25 (12.8)	21	—	21	4
300～399床	14 (7.1)	11	—	11	3
400～499床	5 (2.6)	5	—	5	—
500床以上	7 (3.6)	7	—	7	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 43-④ 病床規模別新規採用者の教育研修計画

(単位：病院 (%))

区分	計	新卒採用者				既卒採用者		看護補助者	
		計	あり		なし	あり	なし	あり	なし
			厚労省の ガイドラインに 沿った研修体制						
			あり	なし					
計	196 (100.0)	161 (82.1)	128 (65.3)	33 (16.8)	35 (17.9)	148 (75.5)	48 (24.5)	145 (74.0)	50 (25.5)
99床以下	70 (35.7)	47	28	19	23	48	22	40	30
100～199床	75 (38.3)	67	57	10	8	61	14	60	14
200～299床	25 (12.8)	24	22	2	1	20	5	21	4
300～399床	14 (7.1)	11	9	2	3	10	4	12	2
400～499床	5 (2.6)	5	5	—	—	5	—	5	—
500床以上	7 (3.6)	7	7	—	—	4	3	7	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) キャリアアップのための支援

(1) 進学支援の有無

「大学、大学院等」への進学支援が「あり」は81病院(41.3%)であった。「看護師養成所(通信制含む)」への進学支援が「あり」は138病院(70.4%)であった。

「あり」の内容をみると、「大学、大学院等」、「看護師養成所(通信制含む)」ともに「勤務調整」が最も多かった。次いで「看護師養成所(通信制含む)」では「奨学金制度」が多かった。(表44)

表 44 進学支援の有無

(単位：病院(%))

区分	計	※あり	なし
大学、大学院等	196 (100.0)	81 (41.3)	115 (58.7)
看護師養成所 (通信制含む)	196 (100.0)	138 (70.4)	58 (29.6)

※「あり」の内容(複数回答)

区分	奨学金 制度	休職制度	勤務調整	代替職員 の配置	旅費の援 助	授業料の 援助
大学、大学院等	24	28	56	7	8	7
看護師養成所 (通信制含む)	85	29	103	5	10	20

(2) 資格取得の支援の有無

「看護管理者資格取得」の支援が「あり」は138病院(70.4%)、「専門看護師資格取得」の支援が「あり」は83病院(42.3%)、「認定看護師資格取得」の支援が「あり」は123病院(62.8%)、「特定行為研修」の支援が「あり」は85病院(43.4%)「国内外留学」の支援が「あり」は25病院(12.8%)であった。

「あり」の内容をみると、各資格取得では「勤務調整」が最も多かった。次いで「授業料の援助」、「旅費の援助」の支援が多かった。(表45)

表45 資格取得の支援の有無

(単位：病院(%))

区分	計	※あり	なし
看護管理者	196 (100.0)	138 (70.4)	58 (29.6)
専門看護師	196 (100.0)	83 (42.3)	113 (57.7)
認定看護師	196 (100.0)	123 (62.8)	73 (37.2)
特定行為研修	196 (100.0)	85 (43.4)	111 (56.6)
国内外留学	196 (100.0)	25 (12.8)	171 (87.2)

※「あり」の内容(複数回答)

区分	奨学金制度	休職制度	勤務調整	代替職員の配置	旅費の援助	授業料の援助
看護管理者	10	12	123	2	72	90
専門看護師	15	24	70	8	30	33
認定看護師	20	31	93	12	69	74
特定行為研修	11	21	71	9	45	52
国内外留学	2	8	19	2	3	2

11 働きやすい職場づくりのための取り組み

1) 働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題について最も多かったのは「代替職員の確保」127病院(23.2%)、次いで「業務が忙しく取り組む余裕がない」77病院(14.1%)であった。順位1,2では「代替職員の確保」が最も多く、順位3では「業務が忙しく取り組む余裕がない」が最も多かった。(表46)

表46 働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院(%))

区分	計	順位1	順位2	順位3
計	547 (100.0)	196 (100.0)	183 (100.0)	168 (100.0)
進め方がわからない	13 (2.4)	5 (2.6)	1 (0.5)	7 (4.2)
相談先がわからない	5 (0.9)	2 (1.0)	3 (1.6)	—
効果が不透明	24 (4.4)	4 (2.0)	9 (4.9)	11 (6.5)
代替職員の確保	127 (23.2)	78 (39.8)	32 (17.5)	17 (10.1)
制度を利用していない職員との不公平感	56 (10.2)	17 (8.7)	23 (12.6)	16 (9.5)
保育サービスの不足	43 (7.9)	9 (4.6)	18 (9.8)	16 (9.5)
職員が制度を利用しない	5 (0.9)	1 (0.5)	1 (0.5)	3 (1.8)
業務が忙しく取り組む余裕がない	77 (14.1)	27 (13.8)	26 (14.2)	24 (14.3)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	8 (1.5)	—	4 (2.2)	4 (2.4)
コストの増加	59 (10.8)	17 (8.7)	27 (14.8)	15 (8.9)
業務効率の悪化	61 (11.2)	12 (6.1)	26 (14.2)	23 (13.7)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	24 (4.4)	—	6 (3.3)	18 (10.7)
院長等トップの理解がない	18 (3.3)	8 (4.1)	3 (1.6)	7 (4.2)
特に問題はない	15 (2.7)	9 (4.6)	2 (1.1)	4 (2.4)
その他	12 (2.2)	7 (3.6)	2 (1.1)	3 (1.8)
<p>「その他」の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア開発支援の体制整備。 ・ 時間がかかる。(準備にも導入も) ・ 該当者の居なかった部署で該当者が出た場合、理解に乏しい。 ・ 人間関係。 ・ 経営者の理解がない。 ・ 他部門とのバランス。 ・ 施設、病院が古くて狭い。 ・ 人事評価制度がない。 ・ コロナ感染症への対応、業務量増大。 ・ 夜勤者の確保。(3施設) ・ 人員不足。(4施設) 				

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(1) 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題を保健医療圏域別にみると、「広島」「広島西」「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」「備北」のすべてが「代替職員の確保」が最も多かった。(表 47)

表 47 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院 (%))

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	547 (100.0)	215 (100.0)	33 (100.0)	65 (100.0)	47 (100.0)	53 (100.0)	110 (100.0)	24 (100.0)
進め方がわからない	13 (2.4)	4 (1.9)	—	3 (4.6)	—	2 (3.8)	2 (1.8)	2 (8.3)
相談先がわからない	5 (0.9)	2 (0.9)	—	—	—	2 (3.8)	1 (0.9)	—
効果が不透明	24 (4.4)	7 (3.3)	1 (3.0)	2 (3.1)	6 (12.8)	6 (11.3)	2 (1.8)	—
代替職員の確保	127 (23.2)	50 (23.3)	7 (21.2)	15 (23.1)	12 (25.5)	10 (18.9)	25 (22.7)	8 (33.3)
制度を利用していない職員との不公平感	56 (10.2)	25 (11.6)	2 (6.1)	6 (9.2)	4 (8.5)	9 (17.0)	9 (8.2)	1 (4.2)
保育サービスの不足	43 (7.9)	18 (8.4)	2 (6.1)	7 (10.8)	5 (10.6)	2 (3.8)	9 (8.2)	—
職員が制度を利用しない	5 (0.9)	2 (0.9)	1 (3.0)	1 (1.5)	—	—	1 (0.9)	—
業務が忙しく取り組む余裕がない	77 (14.1)	29 (13.5)	5 (15.2)	9 (13.8)	5 (10.6)	7 (13.2)	16 (14.5)	6 (25.0)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	8 (1.5)	3 (1.4)	—	2 (3.1)	—	1 (1.9)	1 (0.9)	1 (4.2)
コストの増加	59 (10.8)	21 (9.8)	5 (15.2)	7 (10.8)	6 (12.8)	4 (7.5)	15 (13.6)	1 (4.2)
業務効率の悪化	61 (11.2)	24 (11.2)	5 (15.2)	6 (9.2)	5 (10.6)	4 (7.5)	14 (12.7)	3 (12.5)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	24 (4.4)	9 (4.2)	1 (3.0)	3 (4.6)	2 (4.3)	2 (3.8)	6 (5.5)	1 (4.2)
院長等トップの理解がない	18 (3.3)	9 (4.2)	1 (3.0)	2 (3.1)	—	1 (1.9)	5 (4.5)	—
特に問題はない	15 (2.7)	6 (2.8)	1 (3.0)	1 (1.5)	1 (2.1)	2 (3.8)	3 (2.7)	1 (4.2)
その他	12 (2.2)	6 (2.8)	2 (6.1)	1 (1.5)	1 (2.1)	1 (1.9)	1 (0.9)	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

病床規模別にみると、「99床以下」「100～199床」「200～299床」「300～399床」では「代替職員の確保」が最も多く、「400～499床」「500床以上」では「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多かった。(表48)

表48 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院 (%))

区分	計	99床以下	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上
計	547 (97.8)	198 (99.5)	204 (96.6)	69 (95.7)	40 (100.0)	15 (100.0)	21 (95.2)
進め方がわからない	13 (2.4)	9 (4.5)	4 (2.0)	— —	— —	— —	— —
相談先がわからない	5 (0.9)	3 (1.5)	1 (0.5)	— —	1 (2.5)	— —	— —
効果が不透明	24 (4.4)	7 (3.5)	13 (6.4)	1 (1.4)	2 (5.0)	1 (6.7)	— —
代替職員の確保	127 (23.2)	44 (22.2)	47 (23.0)	21 (30.4)	9 (22.5)	2 (13.3)	4 (19.0)
制度を利用していない職員との不公平感	56 (10.2)	14 (7.1)	19 (9.3)	7 (10.1)	6 (15.0)	4 (26.7)	6 (28.6)
保育サービスの不足	43 (7.9)	9 (4.5)	19 (9.3)	4 (5.8)	4 (10.0)	3 (20.0)	4 (19.0)
職員が制度を利用しない	5 (0.9)	2 (1.0)	3 (1.5)	— —	— —	— —	— —
業務が忙しく取り組む余裕がない	77 (14.1)	31 (15.7)	24 (11.8)	14 (20.3)	6 (15.0)	— —	2 (9.5)
院内で制度を利用しにくい 雰囲気がある	8 (1.5)	5 (2.5)	3 (1.5)	— —	— —	— —	— —
コストの増加	59 (10.8)	25 (12.6)	20 (9.8)	7 (10.1)	4 (10.0)	1 (6.7)	2 (9.5)
業務効率の悪化	61 (11.2)	22 (11.1)	23 (11.3)	7 (10.1)	4 (10.0)	3 (20.0)	2 (9.5)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	24 (4.4)	13 (6.6)	6 (2.9)	2 (2.9)	2 (5.0)	1 (6.7)	— —
院長等トップの理解がない	18 (3.3)	8 (4.0)	8 (3.9)	1 (1.4)	1 (2.5)	— —	— —
特に問題はない	15 (2.7)	5 (2.5)	7 (3.4)	2 (2.9)	1 (2.5)	— —	— —
その他	12 (2.2)	1 (0.5)	7 (3.4)	3 (4.3)	— —	— —	1 (4.8)

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

3) 制度の導入・利用について

看護職員の意見・要望を聞く取組みをしているかについて「取組んでいる」は128病院(65.3%)、「特に取組みはしていないが、随時聞いている」は63病院(32.1%)であった。

「取組んでいる」と回答した病院のうち、最も多く取組まれている制度は「上司との個別面接」で、頻度は「年1回以上」が最も多かった。(表49)

表49 働きやすい職場づくりのための取組み

(単位：病院(%))

区分	病院数
計	196 (100.0)
※取組んでいる	128 (65.3)
特に取組みはしていないが、随時聞いている	63 (32.1)
取組んでいない	5 (2.6)

※「取組んでいる」の内容(複数回答)

(単位：病院)

区分	年1回以上	2～3年に1回	※その他 ()内は内容
計	158	33	7
上司との個別面接	98	20	2
アンケート(満足度調査等)	60	13	5
意見箱の設置		60	
※その他(具体的内容を記入)		25	
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務量調査。 ・ 看護管理者による院内ラウンド。(3施設) ・ 相談窓口の設置と周知。(2施設) ・ コンサルタントによるヒアリング。 ・ 人事評価面接。 ・ 部長への意見を年1回看護部職員に記入してもらっている。 ・ 院内メンタルサポートによる支援。 ・ 委員会設置。(4施設) ・ 意向調査等の実施。(5施設) ・ ハラスメントのアンケートを実施。(2施設) ・ ストレスチェック。 ・ 労使懇談会。 ・ 広島県版自己点検ツールチャレンジの活用。(3施設) 			